

抱えて笑い通しである。ひげをはやした大の男が、まことにつまらぬゲームを真剣に競い、チームの得点にハラハラする姿も実にほほえましい。これはその場に列席しふん困気にひたらないと、どうも筆舌に現わし難いというところである。

職員会始めと終りのうたごえ運動もいいものである。それぞれの教室でめいめいの仕事をしてきた教師が、気持を整えて話し合いに入っていく。また烈しくデスカッションしたり、意見を主張しあったあと、一しよに声を揃えてうたうのはまことによいものである。感情的なこだわりをサラリと流し、しりりをもみほぐすことにもなる。うたい終って相手でドリオドをうつ職員会は近代的な感じがする。意見の対立は、協議すること、がらについてであって、決して個人的なものでなくしていくためにも役立っていると思う。またそういう状態であってこそ、思い切って自分の案を主張できるし、真剣に学校の問題を考えていくような心構えになっていく。

要は、平凡のようだがみんながたがいに信じあって、こどもの伴せのため一しよう果命に協力しあっていこうとする私の精神を第一にすることにほかならない。そのことがPTAとの連絡を密にし、理解ある支

持を受けることにもなる。しかしいずれにしる、このことについて校長・園長の果たす役割は、たいへん重要なものであることを知らねばならない。

(台東区立富士幼稚園長)

職員会をどのようにもっているか

沼 館 正 尾

私の幼稚園では、毎月、月初めに、各組ともその月の保育案を持ちよって、年度計画と照し合せ種々の問題を討議しております。

年長組は年長組で連絡をとり、年少組は年少組として連絡して各々の案をきめてい

きます。

このような職員会は、どこの幼稚園でも大体同じことと存じますが、私のところでは、ちょっと変りまして、「一息職員会」ともいふべき話し合いの会を毎日開いております。

子どもを送り返した後、先生がたが一息つくときに、当番の先生がお茶を用意してくださいませ。時にはお菓子も添えて……。その時にその日の出来事、子どもたちのありかたについて、幼稚園全体の問題について、気づいたことなどをどの先生からともなく話題を出して話合うことになっていきます。

これはとくに命題のない職員会であつて、時間の制限もなく、毎日の保育の上に先生がたの協力と連絡を保ち、幼稚園全体が一体となつて保育してゆく為に必要なことであると考へて、多年の間実行してまいりました。

時には時間を忘れて問題の討議に日が続くこともありませが、大体一時間前後で話し合いが終りまして各自の仕事に移ります。

この一息職員会が、どんなに先生がたの反省と勉強になるか——しかも和やかな気分の中に研究が出来て、それが先生がたの身につく点では、形式的な職員会よりはる

かに有効だと考へております。

これは各クラスの先生がたが、自分のクラスを見るだけでなく、各クラスの子どものもつ特長なり欠点なりを知つていただいて、庭に出ている場合にも、お互に他のクラスの子どもにも注意を払つてゆくこと、その日起きた事柄をこの会で話合つて問題を解決する横の連絡をとる為にも役立っています。

二、三の列を挙げて見ますと、「この頃私の組では靴をかくすのが流行つておりませ。調べて見るとA君らしいですがまだはつきりしないで困つています」という先生がありますと、「ではA君を皆で気をつけて見ましよう」ということになつて、すぐに解決できました。

また、「このごろ規定外の大きなクレヨンをもつてくるのが多く、他の子どもが羨しそうにして見ておりますが……」といへば「私の組でも多くなつてきましたか、どうかしなくては……」というような話から、早速プリントして家庭へ連絡して解決

します。

またあるときは「皆がだいぶできるようになつたので、今日私の組で攀登棒を全部にやらせてみましたか、あい変らず運動神経の鈍いY君だけはやつて見ようともしませんでした。

来年少小学校なのでどうかして多少運動をさせようといろいろやつてみるんですが、いつのまにかそのグループからぬけてしまいます」といふと、他の先生から「でもこの間、女の子の仲間であまりをなげてしましたよ」といふ話が出て「そうですね、珍しいことです。では、そんなことからはじめさせましよう」となつて、その後運動神経の点では特殊児童ともいつてよいY君の指導について種々討議しました。

あるときは、「私のところのH子さんが、全然お話しができません。おえかきするときでも他の場合でも、出来るだけ話しかけてみるのですが、首を縦にふるか、横にふるぐらいがようやくなんです」といふ話が出ますと「では、H子ちゃんを見たら、みん

なでなにかしら話しかけて見ましよう」ということになって、先生がたに注意していただいたおかげで、H子さんは割合に短い期間で、声こそ小さいけれどもどうやらお話ができるようになりました。

またある若い先生が困ったように「M君は家庭でもよくゆきとどいているし、頭も悪くないのですが、何かしら不安定で、人のいないような所へおとなしそうな女の子を誘っていったりして、遊びが不明朗なので注意すると、悪そうな顔をするのがおとなのように心配になるんですが……。」というお話を出しましたので、皆さんに気をつけていただくようにしました。ところが、見ていると物置のかげとか、先生の目のとどかないような場所へいくのが多く、何をしているかとときと「お医者ごっこをしている」というのです。こんな場合に先生は平静に軽く注意してとくに悪いことをしているというような意識をもたせないようにして自然に明るい遊びの方へ向けていくように相談して、先生がたの協力で正常な遊

びへ誘っていただいて、ようやくその子もみんなと子どもらしく遊ぶようになりました。

また「今日は先生のクラスで実物をおいて果物の切り紙をしていましたね。あの梨やぶどうを明日私の方へかして下さい」

時にはこんな経済的なお話も出ます。

こうかいて見ますと、毎日どの幼稚園でも起るさ細なことで、見逃したり、注意しなければそのまま過ぎてゆくようなこともあります。けれども、とり上げて話し合ってみると、なかなか教育上大切なことがありまして、それから改めて家庭事情を調べてみるとか、家庭訪問をしてみるとか、また身体検査を精密にしてみなければならぬようなことや、子どもの往復の道路を歩いてみる必要のあることなどが起ってきます。

この一息職員会が、どんなに先生がたの明日の保育への原動力となることか。また協力的に何事もしていただけるので大切にしています。

ただ、このような会は、長い間には単なる茶話話になり、情性でつづいてゆく危険がないとはいえません。しかしそれは当事者の心がまあと教育に対する熱意とよってきまるものと思います。幸い、私の幼稚園では強い反省会ともなつて、時間的に多少の負担とはなりますけれども、先生がたの御協力によって大切につづけていくつもりです。

(洗足学園幼稚園長)

* * *

* * *